

お買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。この説明書は、必ず保管してください。

**安全上のご注意**

安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。必ずお守りください。なお、有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。

|  |           |   |
|--|-----------|---|
|  | <b>警告</b> | 死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。                         |
|  | <b>注意</b> | 軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況および物的損害の発生するおそれがある場合を示します。 |

お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。

- 注意する
- してはいけない
- 必ず守る

**■施工上のご注意**

| <b>警告</b>  |  |      |     |     |        |      |      |
|--|--|------|-----|-----|--------|------|------|
| <p>基台を固定するアンカーボルトは M12、壁面を固定するアンカーボルトは M10 を必ず使用してください。地震などで転倒・破損の原因となります。</p> <p>本品を吊り上げる場合はアイボルトを使用し、必ず 4 か所で吊り上げ、45° 以上の角度で均一な荷重にしてください。2 か所での吊り上げや 45° 未満の角度での吊り上げは、落下・破損・変形の原因となります。</p> <div style="text-align: center;"> <p>45° 以上</p> </div> | <p>基台は M12 のアンカーボルトで床面に 4 か所固定してください。また、キャビネットは別売りオプション RD742-20K「壁面固定金具」を使用して、M10 のアンカーボルトで壁面に 2 か所固定するなど転倒防止を行ってください。但し、十分強度のある壁面（コンクリート）に確実に固定してください。強度が不十分な場合、キャビネットが転倒し、けがの原因となります。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>ボルト径</td> <td>M12</td> <td>M10</td> </tr> <tr> <td>最小埋込深さ</td> <td>60mm</td> <td>45mm</td> </tr> </table> <div style="text-align: center;"> <p>60mm 以上 床面固定      45mm 以上 壁面固定</p> </div> | ボルト径 | M12 | M10 | 最小埋込深さ | 60mm | 45mm |
| ボルト径   | M12  | M10  |     |     |        |      |      |
| 最小埋込深さ   | 60mm   | 45mm |     |     |        |      |      |

| <b>注意</b>   |   |
|---|---|
| <p>本製品に落下などの強い衝撃を与えないでください。衝撃により破損・へコミ・歪みが発生し、強度低下の原因になります。</p> | <p>キャビネット本体が水平に設置できるように、レベル調整を行ってください。ドアの開閉やユニットの操作に支障をきたすおそれがあります。</p> |

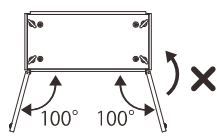
**■使用上のご注意**

| <b>注意</b>   |   |
|---|---|
| <p>ユニット可動時に光ファイバの挟み込みや巻き込みに十分注意してください。光ファイバ断線の原因になります。</p> <p>心線がケーブルガイドの外にはみ出さないように十分注意してください。引出し可動時に光ファイバ断線の原因になります。</p> <p>引き出しユニットを引き出した状態で別の作業を行う時は十分に注意してください。けがの原因になります。</p> <p>ドア、側板や背面板を着脱する時は、重量がありますので落下などのないよう十分に注意してください。けがの原因になります。</p> | <p>ハンドルのシリンダーにキーを差した状態で、キーに強い衝撃や荷重を掛けしないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。</p> <p>シリンダーにキーを抜き差ししながら回転動作は行わないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。</p> <p>シリンダーの施錠・解錠位置以外では、キーを無理に引き抜かないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。</p> <p>ヒンジのレバー操作は電動ドライバーで行わないでください。破損の原因になります。</p> <p>ヒンジのレバーを逆回転や無理な回転をしないでください。十字穴・ギア部が破損するおそれがあります。</p> <p>本製品の上に物を載せたり、もたれ掛かったりしないでください。落下・破損・けがの原因になります。</p> <p>天井面への局所的な荷重をかけないでください。変形の原因になります。</p> |
| <p> 指に注意</p> <p>ドアの着脱を行う際は、ドアとキャビネット本体の間に指を挟まないでください。けがの原因になります。</p> <p>ドアの着脱を行う際は、ヒンジのレバー操作で指を挟まないでください。けがの原因になります。</p>  |   |

## ⚠ 注意

引き出しユニットを引き出した状態で、引き出しユニットに荷重をかけないでください。落下・破損・変形の原因になります。

ドアの開閉角度は約100°です。扉を開けた状態で、矢印方向にさらに荷重を掛けしないでください。ドアおよび蝶番部の変形・破損の原因になります。



次の場所では使用しないでください。故障の原因になります。

- 高温、高湿となる場所
- 腐食性ガスのある場所
- 振動、衝撃のある場所
- 可燃性ガスのある場所
- 塵埃やオイルミストが多い場所
- 有機溶剤のかかる場所
- 水滴のかかる場所



使用するねじやボルトは、指定されたものを使用してください。

取り付けの際は、適正締め付けトルクにて締め付けてください。締め付けが不十分な場合、落下・破損の原因になります。また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

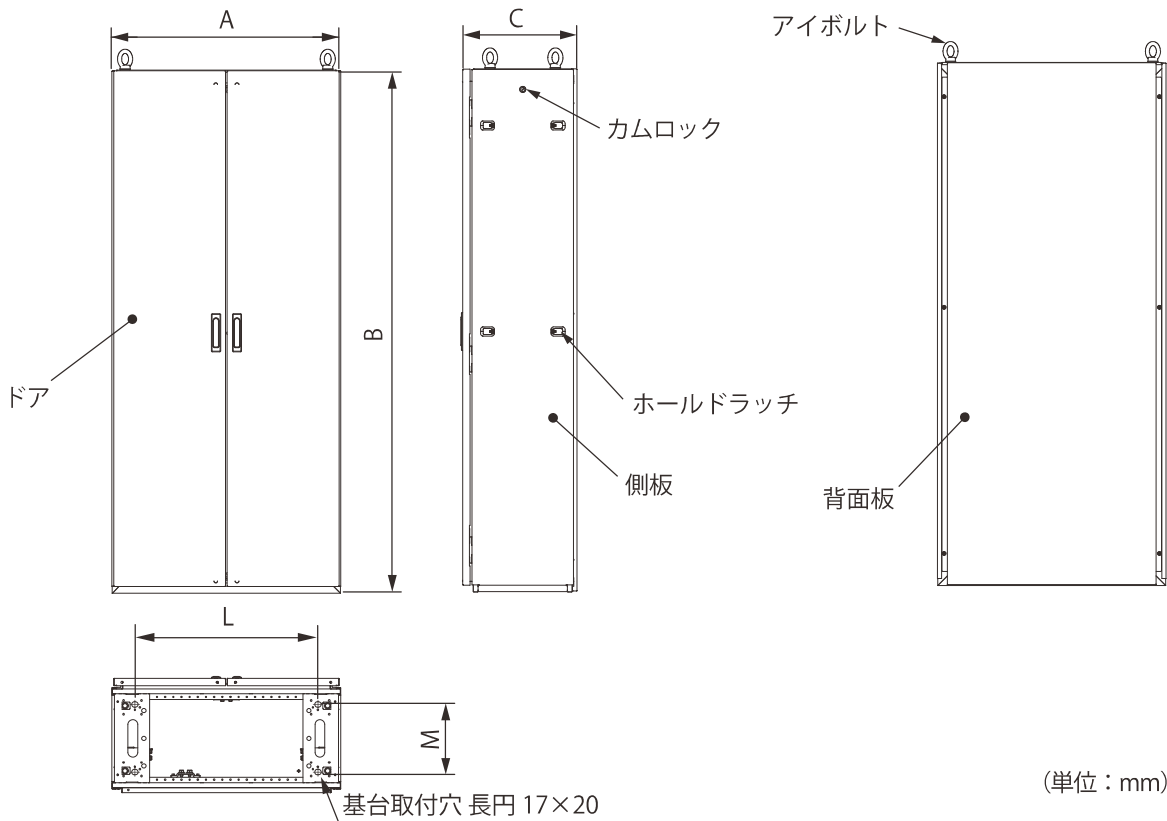
| ねじの呼び | 適正締め付けトルク       |
|-------|-----------------|
| M5    | 2.9 ~ 3.9 N・m   |
| M10   | 19.6 ~ 29.4 N・m |

ケーブルガイドはスライドさせて取り付け、取り外してください。ケーブルガイドを回転させると破損するおそれがあります。

ユニットは作業終了後、必ず収納してください。ユニットが飛出し、落下・破損・けがの原因になります。

※標準は4心テープ心線用です。他のテープ心線または単心を使用の場合は別途お問合わせください。  
 ※下側からの入線を標準としていますので、上からの入出線の場合は別途お問合わせください。

## ■キャビネット寸法









(単位：mm)

## ■仕様

《融着接続 + コネクタ接続タイプ》

| 品名記号             | 融着接続数<br>(心) | クランプ数<br>(コ) | 融着段数<br>(段) | アダプタ<br>段数(段) | 外形寸法(mm) |       |        | 取付寸法(mm) |     |
|------------------|--------------|--------------|-------------|---------------|----------|-------|--------|----------|-----|
|                  |              |              |             |               | A(ヨコ)    | B(タテ) | C(フカサ) | L        | M   |
| SPEP-SA240-SC    | 240          | 7            | 3           | 3             | 700      | 1,000 | 350    | 560      | 208 |
| SPEP-SA400-SC    | 400          | 〃            | 5           | 5             | 〃        | 1,600 | 〃      | 〃        | 〃   |
| SPEP-SA880-SC-K  | 880          | 〃            | 11          | 11            | 800      | 1,800 | 400    | 660      | 258 |
| SPEP-SA1200-SC-K | 1200         | 〃            | 15          | 15            | 〃        | 2,300 | 〃      | 〃        | 〃   |

## ●付属品

| 部品名                     | 品名記号  | SPEP-SA240-SC | SPEP-SA400-SC | SPEP-SA880-SC-K | SPEP-SA1200-SC-K |
|-------------------------|---|---------------|---------------|-----------------|------------------|
| キー<br>(No.200)          |  | 2コ            | 2コ            | 2コ              | 2コ               |
| 大形角座金 12                |  | 4コ            | 4コ            | 4コ              | 4コ               |
| 保護チューブ<br>(1セット:8色、各4m) |  | 2セット          | 3セット          | 5セット            | 6セット             |
| 補強熱スリーブ                 |  | 60本           | 102本          | 222本            | 300本             |
| ドライバー                   |  | —             | —             | 1本              | 1本               |
| 結束テープ(1m)               |  | 3コ            | 5コ            | 11コ             | 15コ              |

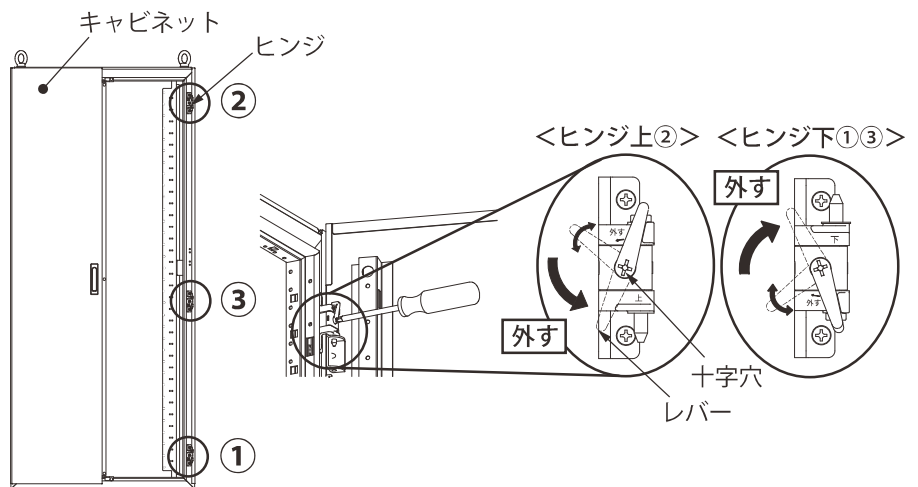
## ■キャビネットの使用法

### 1. ドアの着脱方法



- ・ドアを90°以上に開いた状態で、フレームに取り付けられたヒンジのレバーで回転させ、ドアを着脱します。

※レバーが硬い場合は十字穴をドライバーで回転させてください。

- ・取り外し時のヒンジ部操作は、①下部②上部③中央の順で行ってください。また装着の場合は逆の順序となります。



## ⚠注意

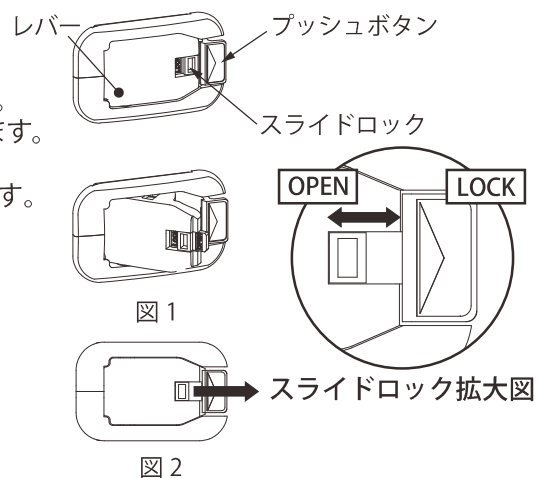
|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
|  | ヒンジのレバーを逆回転や無理な回転をしないでください。十字穴・ギア部が破損するおそれがあります。 |  | ドアの着脱を行う際は、ドアとキャビネット本体の間に指を挟まないでください。けがの原因になります。     |
|   | ヒンジのレバー操作は電動ドライバーで行わないでください。破損の原因になります。          |   | 指に注意<br>ドアの着脱を行う際は、ヒンジのレバー操作で指を挟まないでください。けがの原因になります。 |

### 2. ホールドラッチの操作方法

- ・側板の着脱は、ホールドラッチで行います。プッシュボタンを押すとレバーが跳ね上がり、外装パネルが外れます。また、側板を取り付ける際には、レバーを倒すとフレームに固定されます。(図1)
- ・不意なレバーの跳ね上がり防止のためにロック機構が付いています。スライドロックをスライドさせることによりロックされます。スライドロックに「OPEN」、「LOCK」の表示があり、状態を確認することができます。(図2)

(ご注意)

外装パネルを取り付けた後に、ラッチが確実にかかっているか、がたつきがないか確認してください。

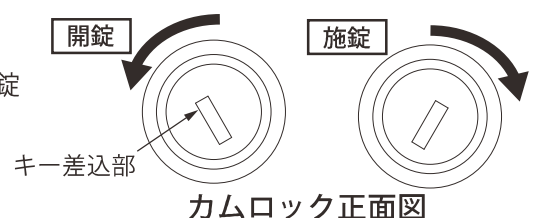


### 3. カムロックの操作方法

側板のセキュリティは、カムロックにて行います。カムロックにキーを奥まで差し込み、右回りにすると施錠し、左回りにすると開錠されます。

(ご注意)

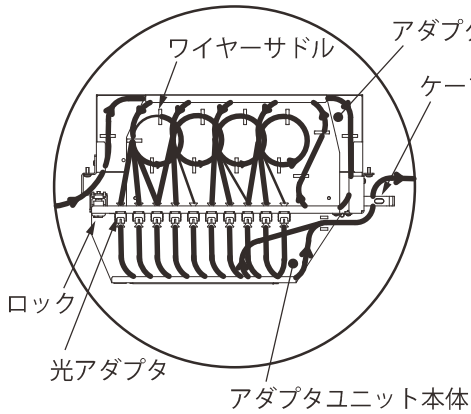
施錠後、確実にロックされているか確認してください。



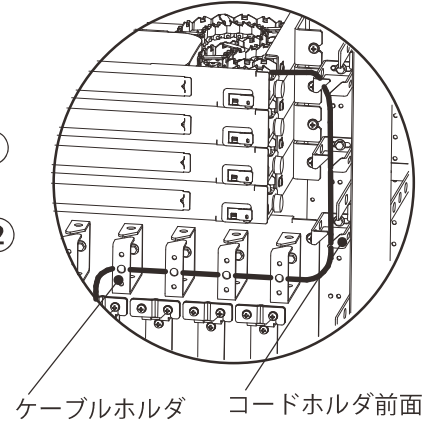
# 【スタンダードタイプ (SPEP-SA□-SC)】

## ■各部名称および配線形態

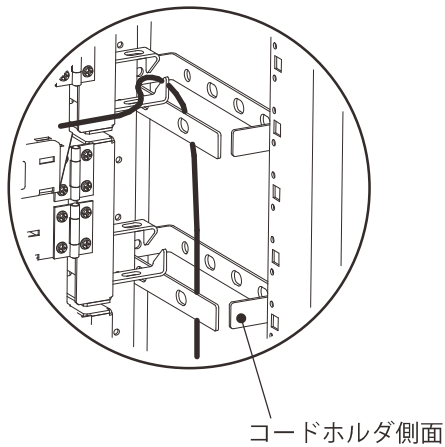
### ①アダプタユニット



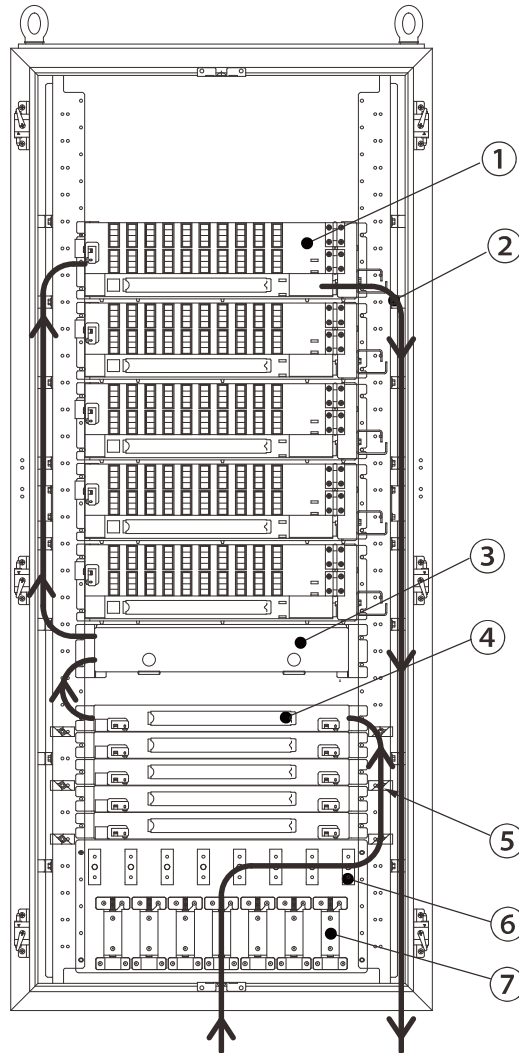
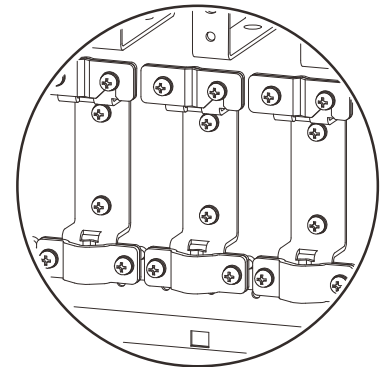
### ⑤コードホルダ前面 ⑥ケーブルホルダ



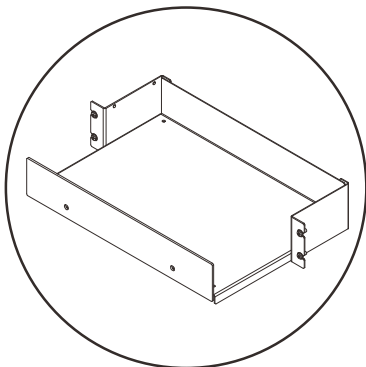
### ②コードホルダ側面



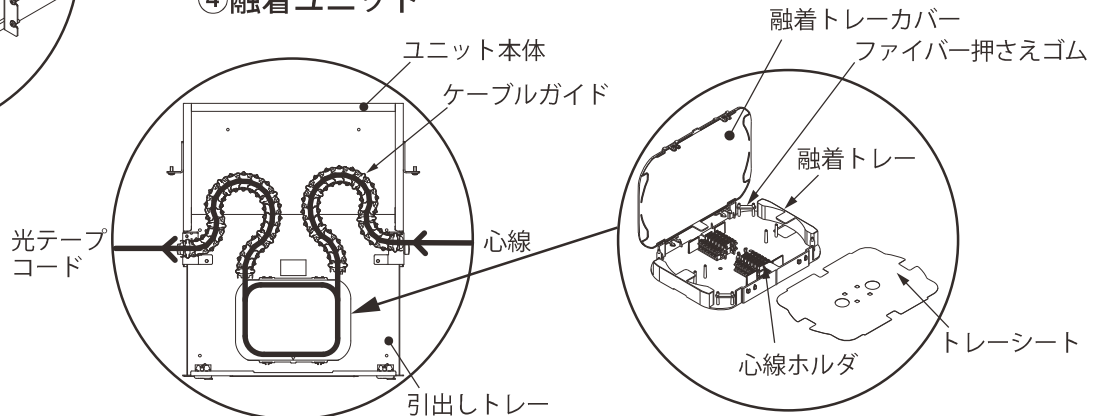
### ⑦ケーブルクランプ



### ③余長ユニット



### ④融着ユニット

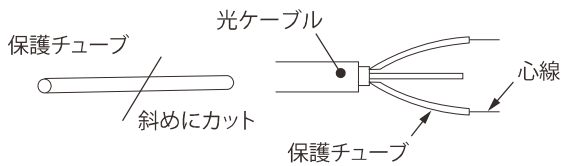


融着トレー部拡大図

## ■保護チューブの使用法

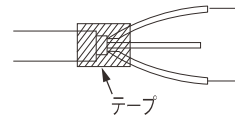
### ●保護チューブの挿入

1. 保護チューブの先端を斜めに切断する。
2. 光ケーブルの溝1つにつき保護チューブ1本を心線に挿入する。



### ●保護チューブのテーピング

- ・保護チューブとシース剥ぎ取り端部をテーピングする。(保護チューブの抜け防止)



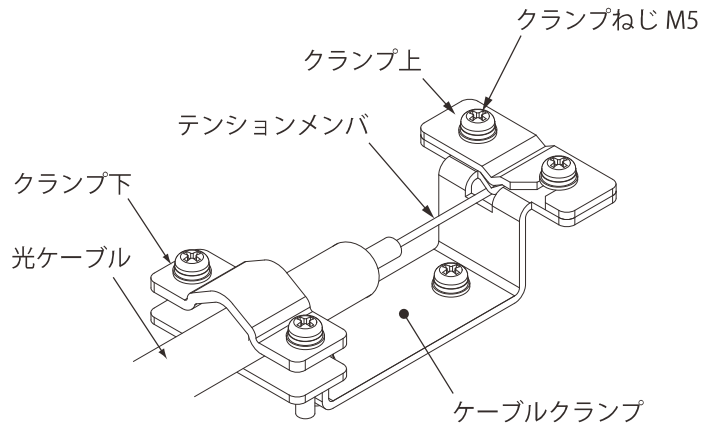
## ■配線手順

### 1. ケーブルクランプ

- ・光ケーブルの外被およびテンションメンバをケーブルクランプにのせ、クランプ上、クランプ下をクランプねじ M5 で固定してください。

(ご注意)

- ・テンションメンバクランプねじ M5 の締め付けは、 $2.5 \sim 3.0\text{N} \cdot \text{m}$  のトルクで行ってください。
- ・光ファイバの挟み込みに注意してください。断線の原因になります。



### 2. ケーブルホルダ、コードホルダ前面

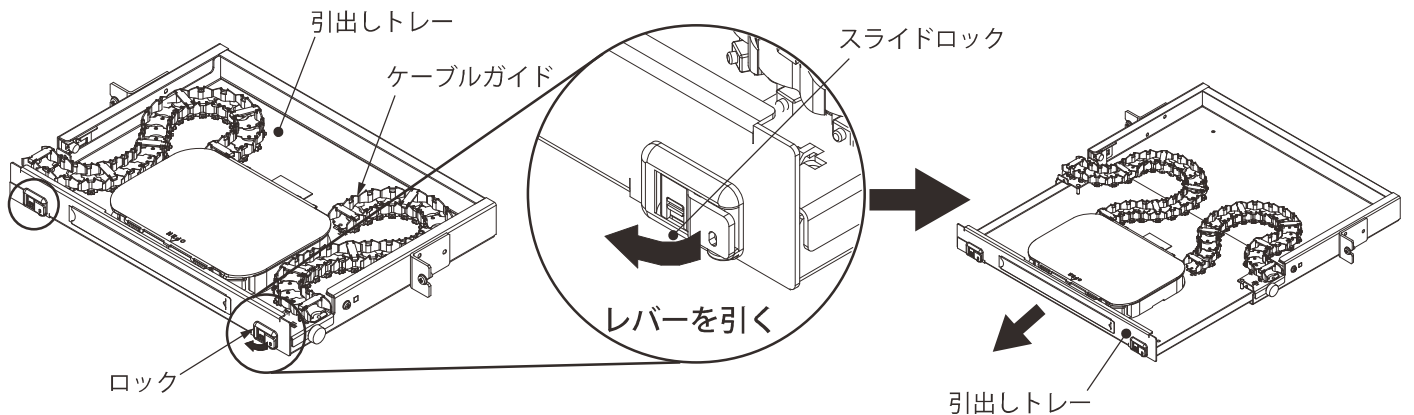
ケーブルホルダ、コードホルダ前面に心線（保護チューブ付）を通してください。

### 3. 融着ユニット

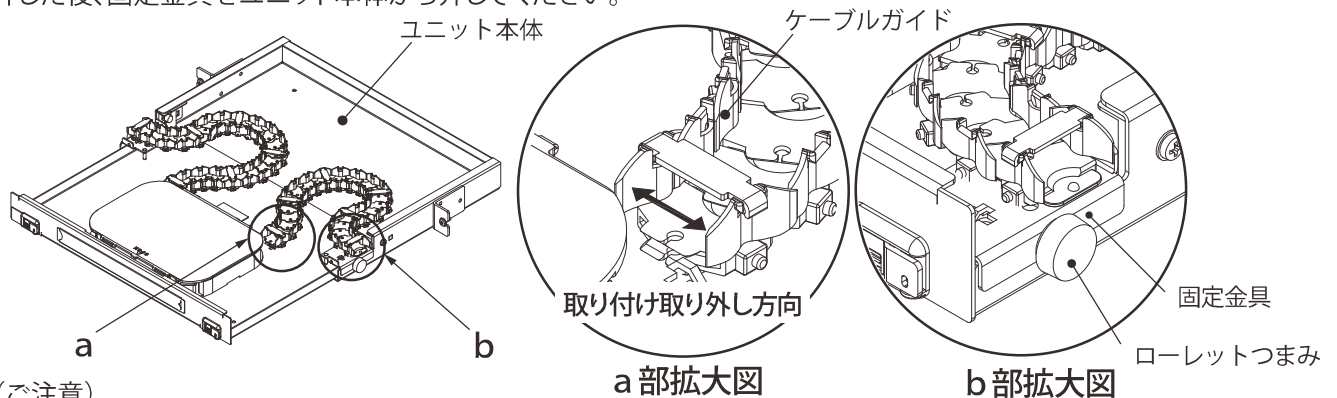
- ① スライドロックを解除し、レバーを引き、引出しトレイを引き出してください。

(ご注意)

ケーブルガイドが引出しトレイ可動時に追従して動きますので、引き出し時の長さ調整を考慮する必要はありません。



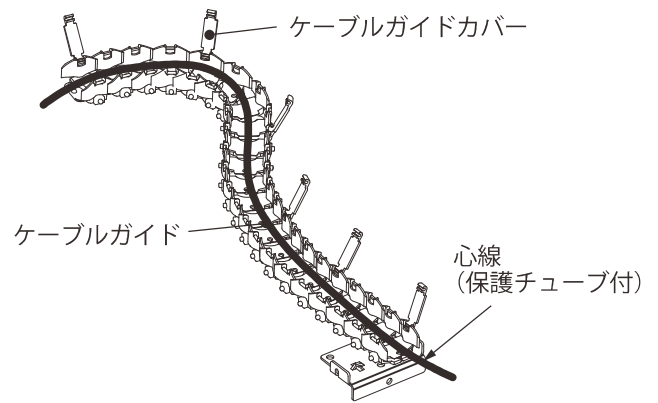
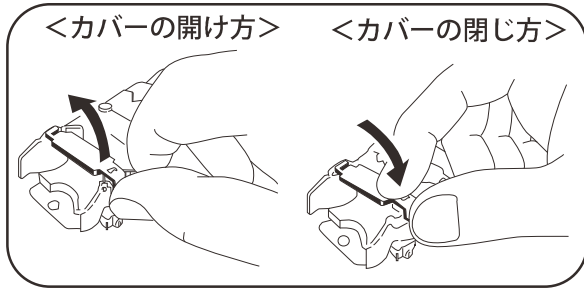
- ② a部のケーブルガイドは左右にスライドさせて取り外します。b部のケーブルガイドはローレットつまみを回して取り外した後、固定金具をユニット本体から外してください。



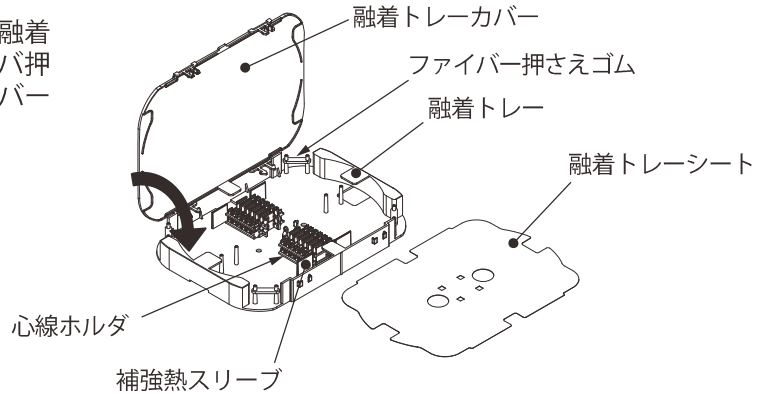
(ご注意)

ケーブルガイドは回転させないでください。ケーブルガイドが破損します。

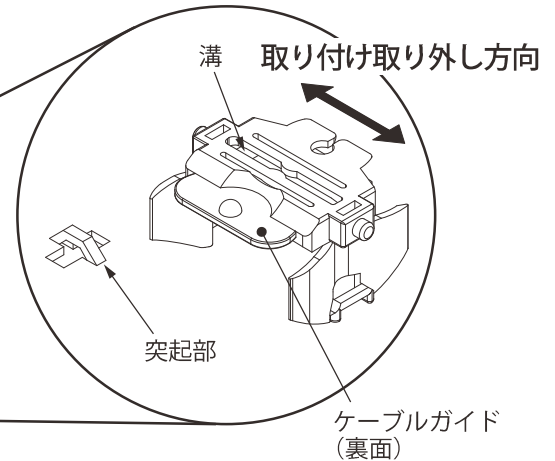
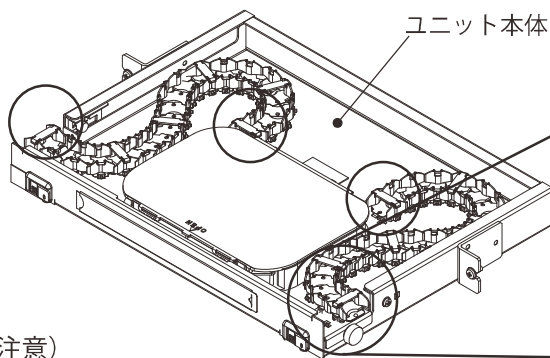
③ケーブルガイドカバーを外して心線(保護チューブ付)を上から挿入し、カバーを閉じてユニット本体に戻してください。※光テープコードも上記手順で行ってください。



④補強熱スリーブ(付属品)を心線ホルダに固定し、融着トレー内に余長を収納してください。余長をファイバ押さえゴムおよびトレーシートで押さえ融着トレーカバーを閉めてください。

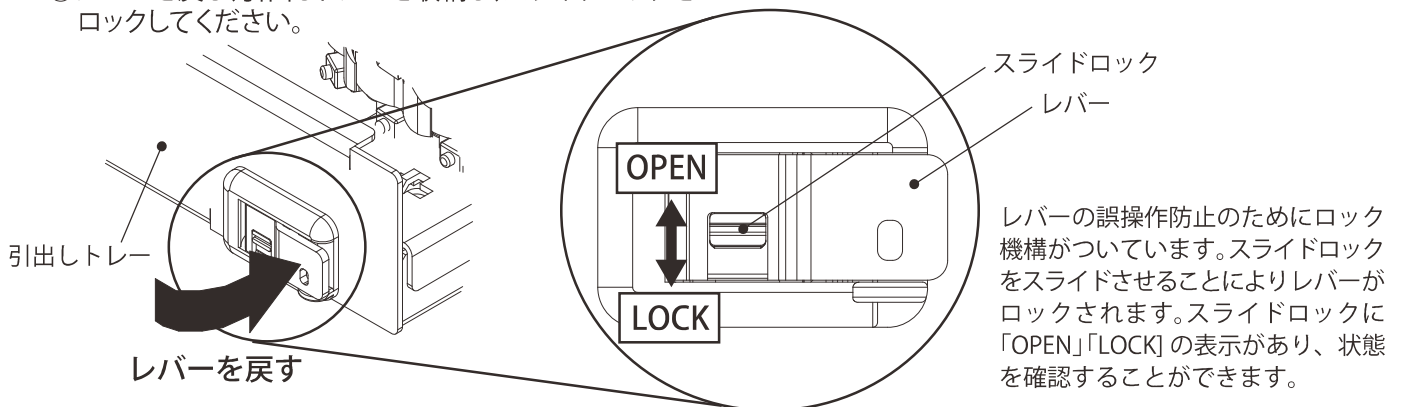


⑤ユニット本体の突起部にケーブルガイド裏面の溝を合わせ、左右にスライドさせて取り付けてください。



(ご注意)  
ケーブルガイドは回転させないように注意してください。  
ケーブルガイドが破損します。

⑥レバーを戻し、引出しトレーを収納し、スライドロックをロックしてください。



(ご注意)  
レバーロック拡大図  
心線(保護チューブ付)、光コードがケーブルガイドの外にはみ出さないように十分注意してください。  
はみ出しがある場合、引出し可動時に光ファイバの断線の原因になります。

#### 4. 余長ユニット

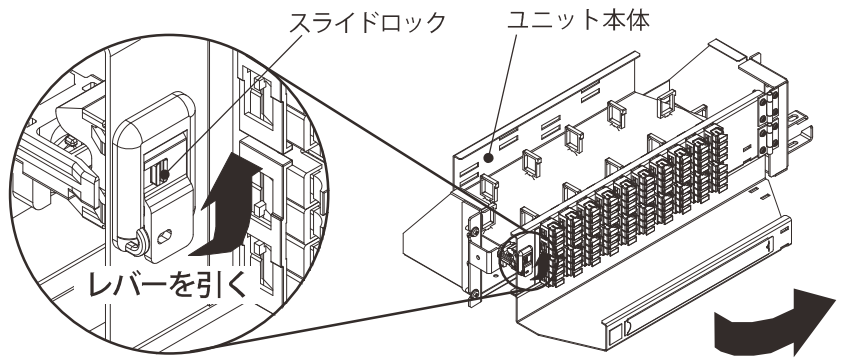
光コードの余長を余長ユニットに収納してください。

#### 5. コードホルダ側面

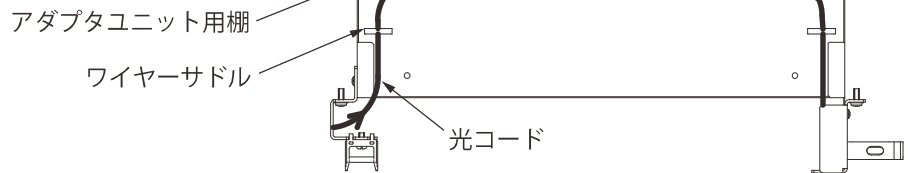
コードホルダ側面にコードを通してください。

## 6. アダプタユニット

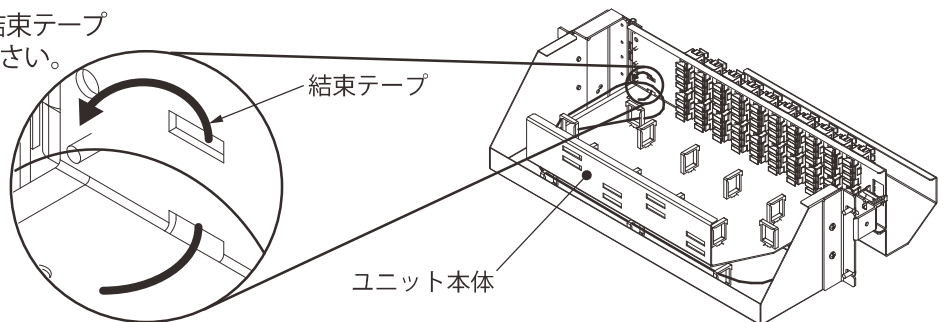
- ①ユニット本体のスライドロックを解除し、レバーを引いて、ユニット本体を手前に引いてください。



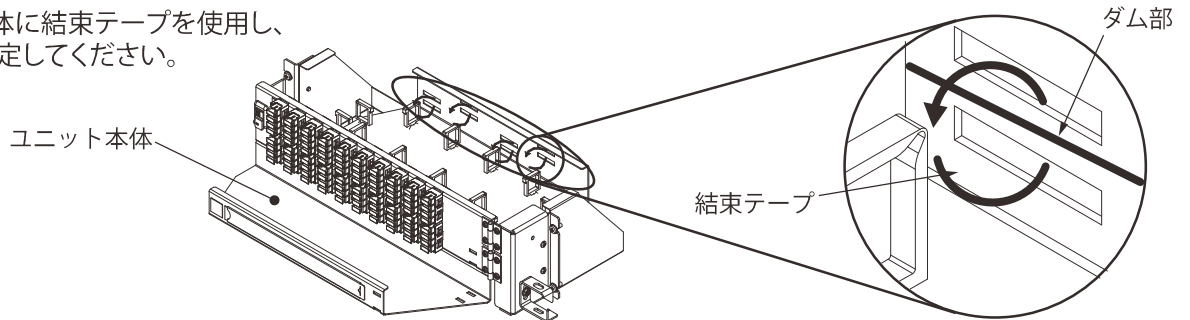
- ②アダプタユニット用棚のワイヤーサドルに光コードを通してください。



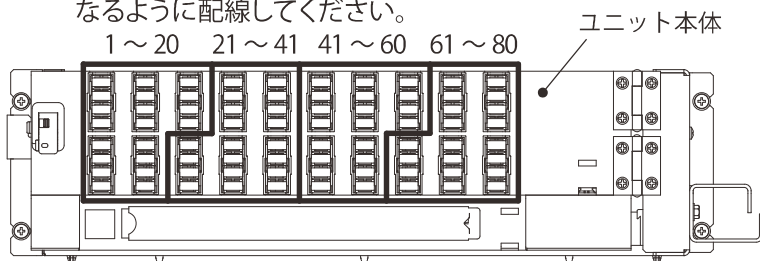
- ③ユニット本体に光コードを通し、結束テープを使用し光コードを固定してください。



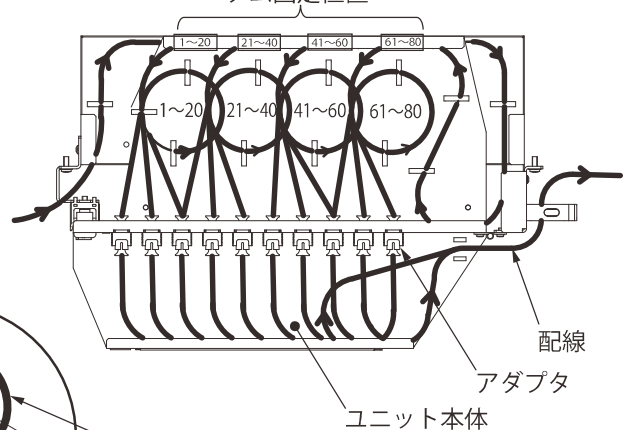
- ④ユニット本体に結束テープを使用し、ダム部を固定してください。



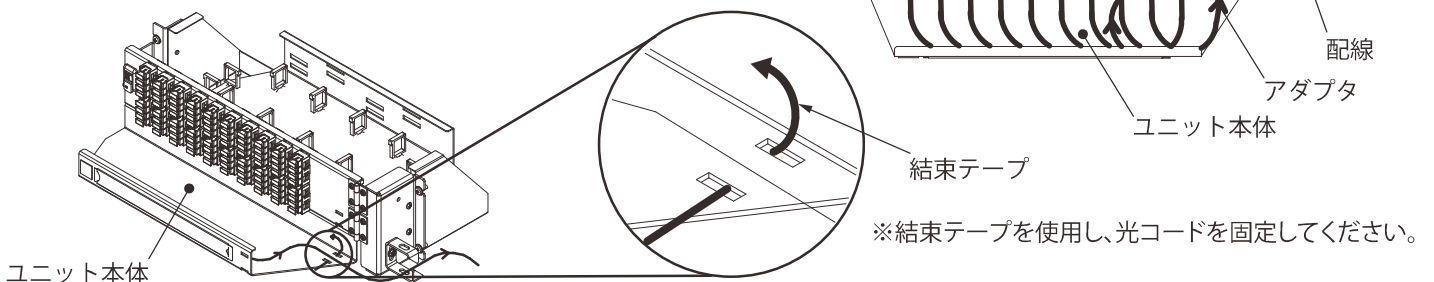
- ⑤ダム固定位置と配線収納の位置が下図のように配線してください。



各配線とアダプタの位置関係は、下図のようになります。ダム固定位置



- ⑥前面のコードは右方向へ流れるように配線してください。



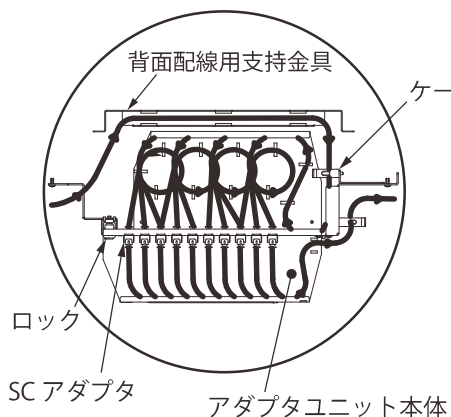
## 7. コードホルダ側面

コードホルダ側面に光コードを通してください。

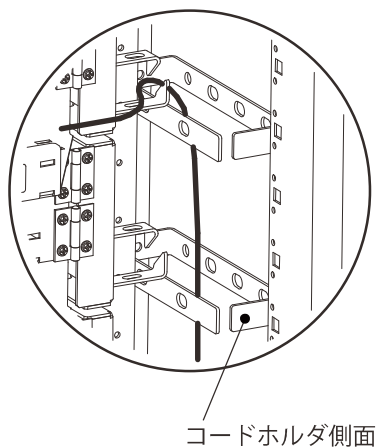
# 【高密度タイプ (SPEP-SA□-SC-K)】

## ■各部名称および配線形態

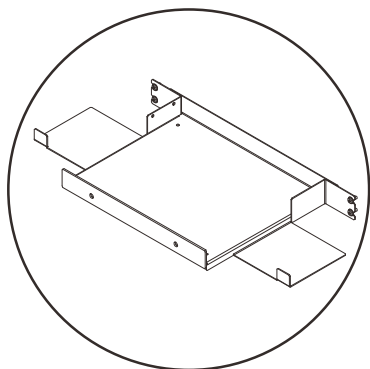
### ①アダプタユニット



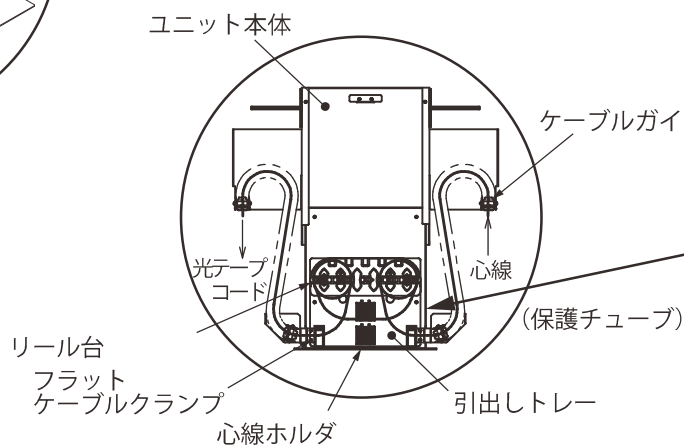
### ②コードホルダ側面



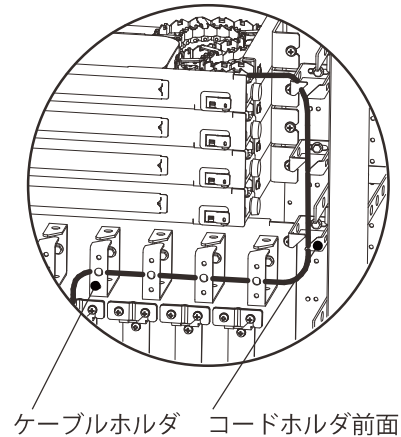
### ③余長ユニット



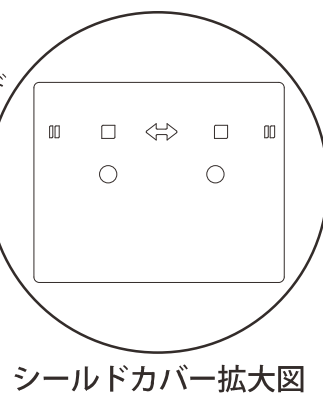
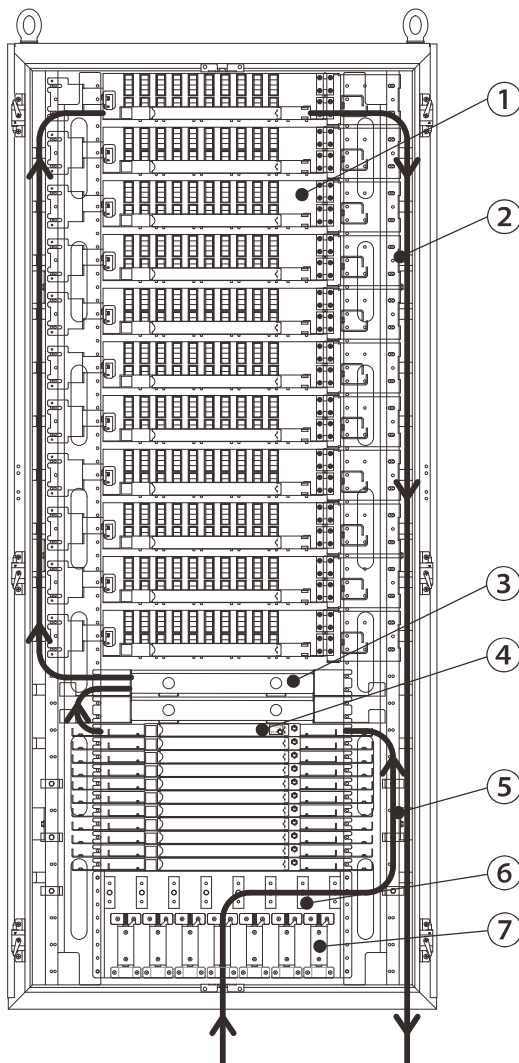
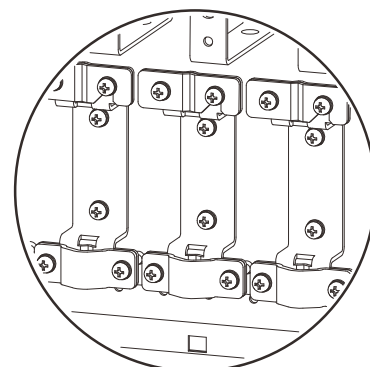
### ④融着ユニット



### ⑤コードホルダ前面 ⑥ケーブルホルダ



### ⑦ケーブルクランプ





## ■配線手順

### 1. ケーブルクランプ

「P.5 ■配線手順 1. ケーブルクランプ」を参照してください。

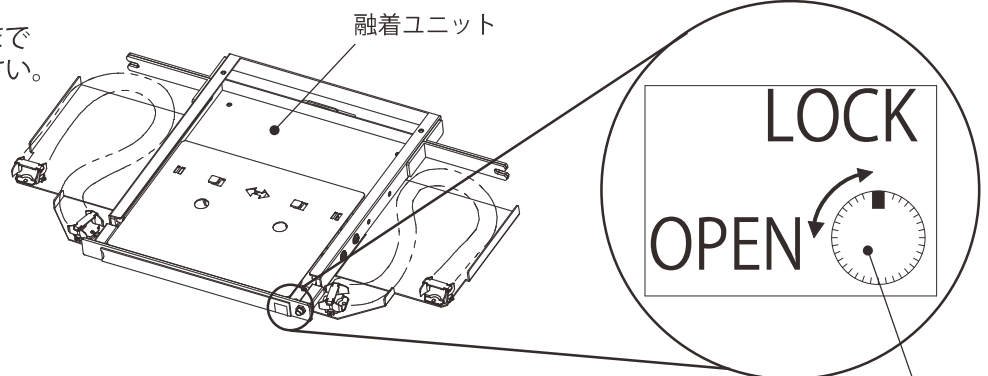
※ケーブルガイドがユニット引出し可動時に追従して動きますので、引き出し時の長さ調整を考慮する必要はありません。

### 2. ケーブルホルダ、コードホルダ前面

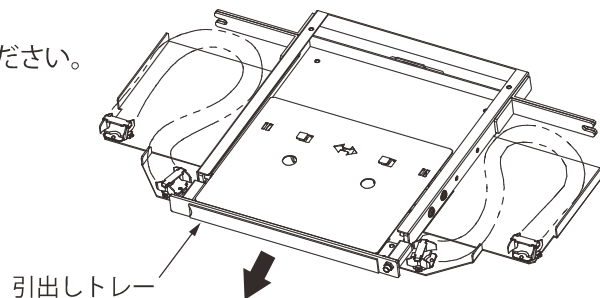
ケーブルホルダ、コードホルダ前面に心線（保護チューブ付）を通してください。

### 3. 融着ユニット

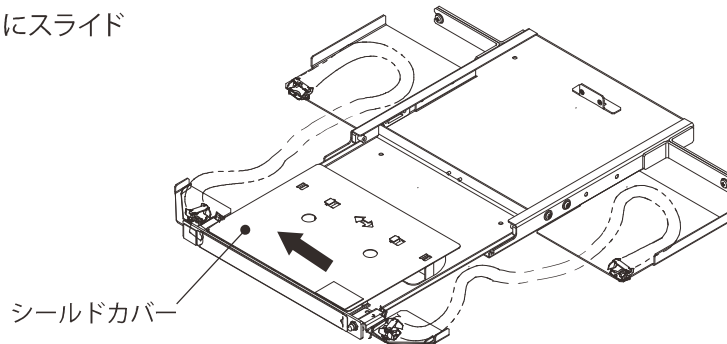
- ①つまみの目印をOPEN位置までまわしてロックを解除してください。



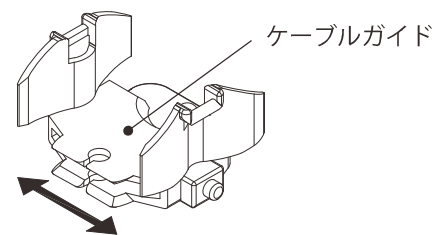
- ②引出しトレイを引き出してください。  
引出しトレイは必ず両手で引き出してください。



- ③シールドカバーを矢印の向きにスライドさせて取り外してください。



- ④ケーブルガイドを左右にスライドさせて取り外してください。

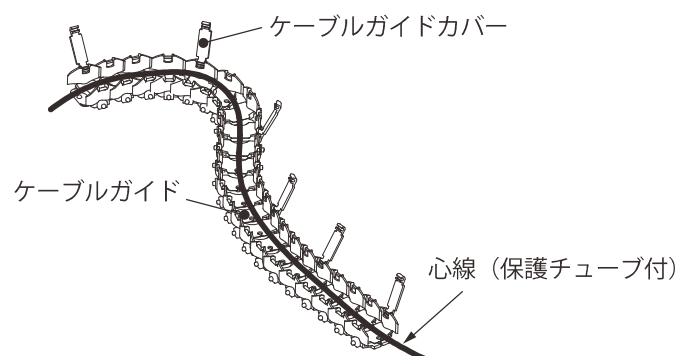


(ご注意)

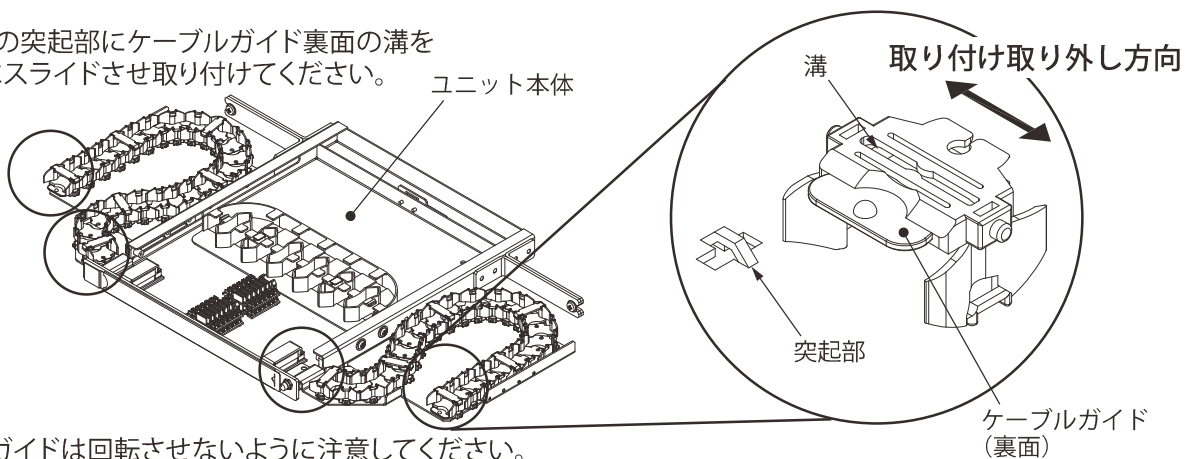
ケーブルガイドは回転させないように注意してください。  
ケーブルガイドが破損します。

取り付け取り外し方向

- ⑤ケーブルガイドカバーを外して心線（保護チューブ付）光コードを上から挿入してください。  
次にカバーを閉じてユニット本体に戻してください。  
※光テープコードも上記手順で行ってください。



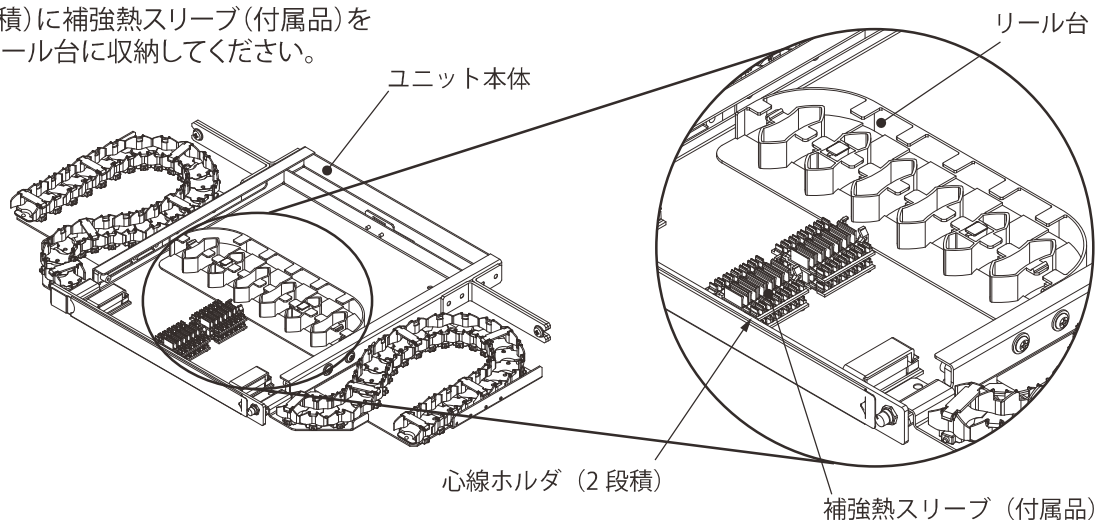
- ⑥ユニット本体の突起部にケーブルガイド裏面の溝を合わせ左右にスライドさせ取り付けてください。



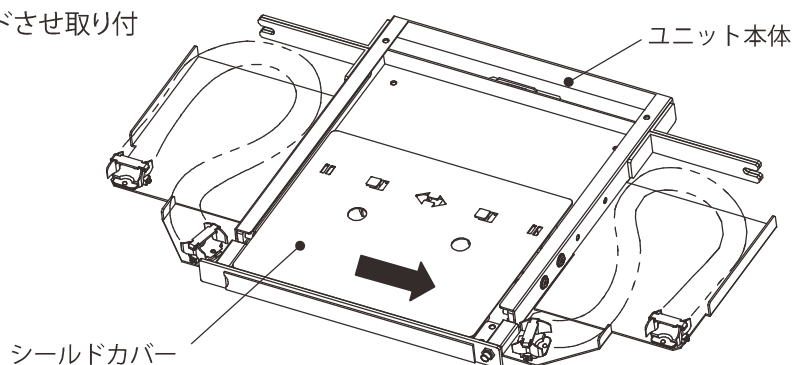
(ご注意)

ケーブルガイドは回転させないように注意してください。  
ケーブルガイドが破損するおそれがあります。

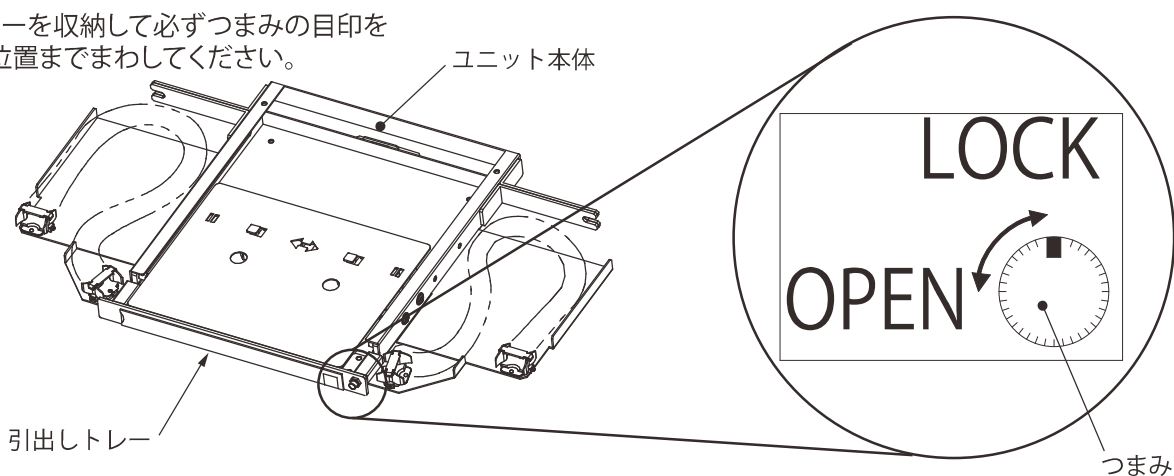
- ⑦心線ホルダ(2段積)に補強熱スリーブ(付属品)を差し込み余長をリール台に収納してください。



- ⑧シールドカバーを矢印の向きにスライドさせ取り付けてください。



- ⑨引出しトレーを収納して必ずつまみの目印をLOCK位置までまわしてください。



#### 4. 余長ユニット

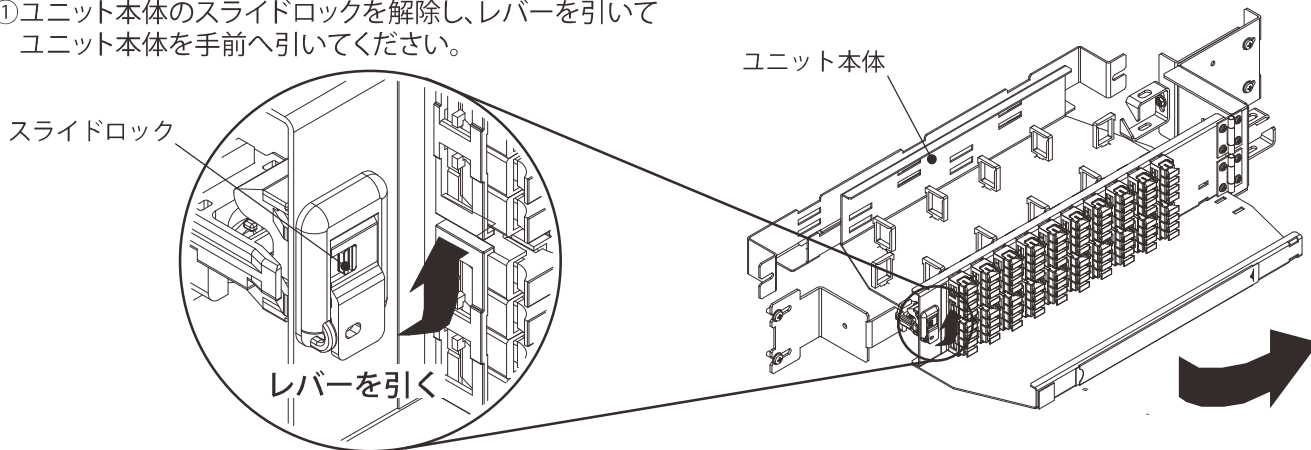
光コードの余長を余長ユニットに収納してください。

#### 5. コードホルダ側面

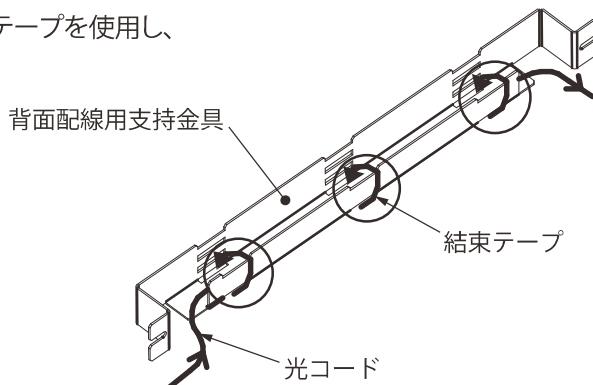
コードホルダ側面に光コードを通してください。

## 6. アダプタユニット

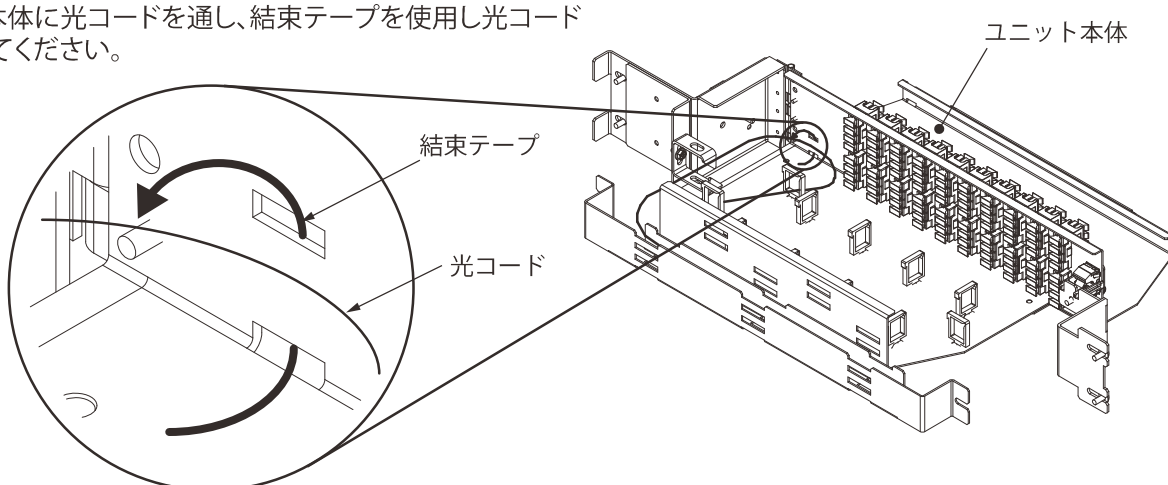
- ①ユニット本体のスライドロックを解除し、レバーを引いてユニット本体を手前へ引いてください。



- ②背面配線用支持金具に光コードを通し、結束テープを使用し、光コードを固定してください。

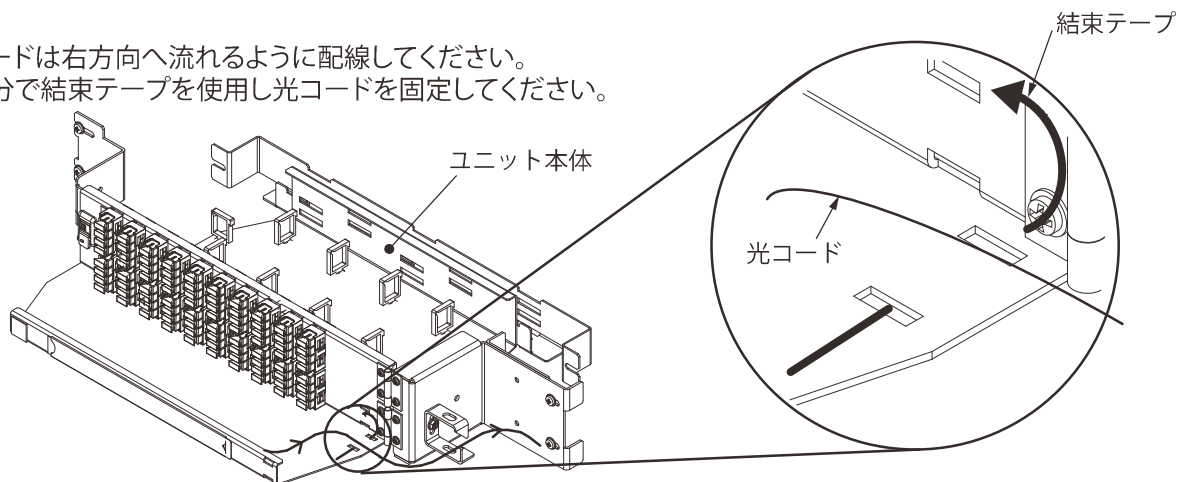


- ③ユニット本体に光コードを通し、結束テープを使用し光コードを固定してください。



- ④. ダム固定位置と配線収納位置、各配線とアダプタ位置関係は、P.7「6. アダプタユニットの④項、⑤項」を参照してください。

- ⑤. 前面のコードは右方向へ流れるように配線してください。  
下図の部分で結束テープを使用し光コードを固定してください。

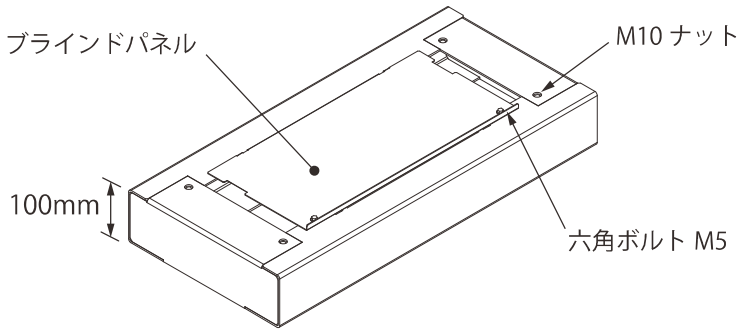


## 7. コードホルダ側面

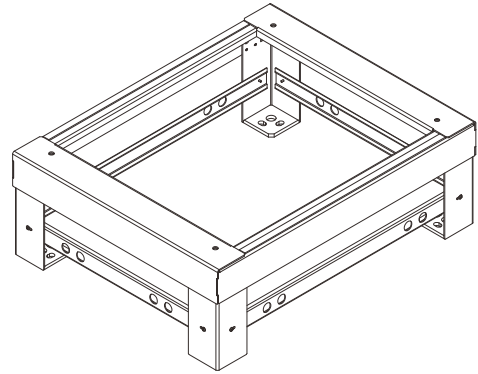
- コードホルダ側面に光コードを通してください。

## ■基台、フリーアクセスフロア基台について

基台は組替仕様になります。基台が必要な場合は、標準品の品名記号の末尾に「-B」をつけてご用命ください。  
フリーアクセスフロア基台は個別対応品になります。フリーアクセスフロア基台が必要な場合は、別途お問合せください。



基台



フリーアクセスフロア基台

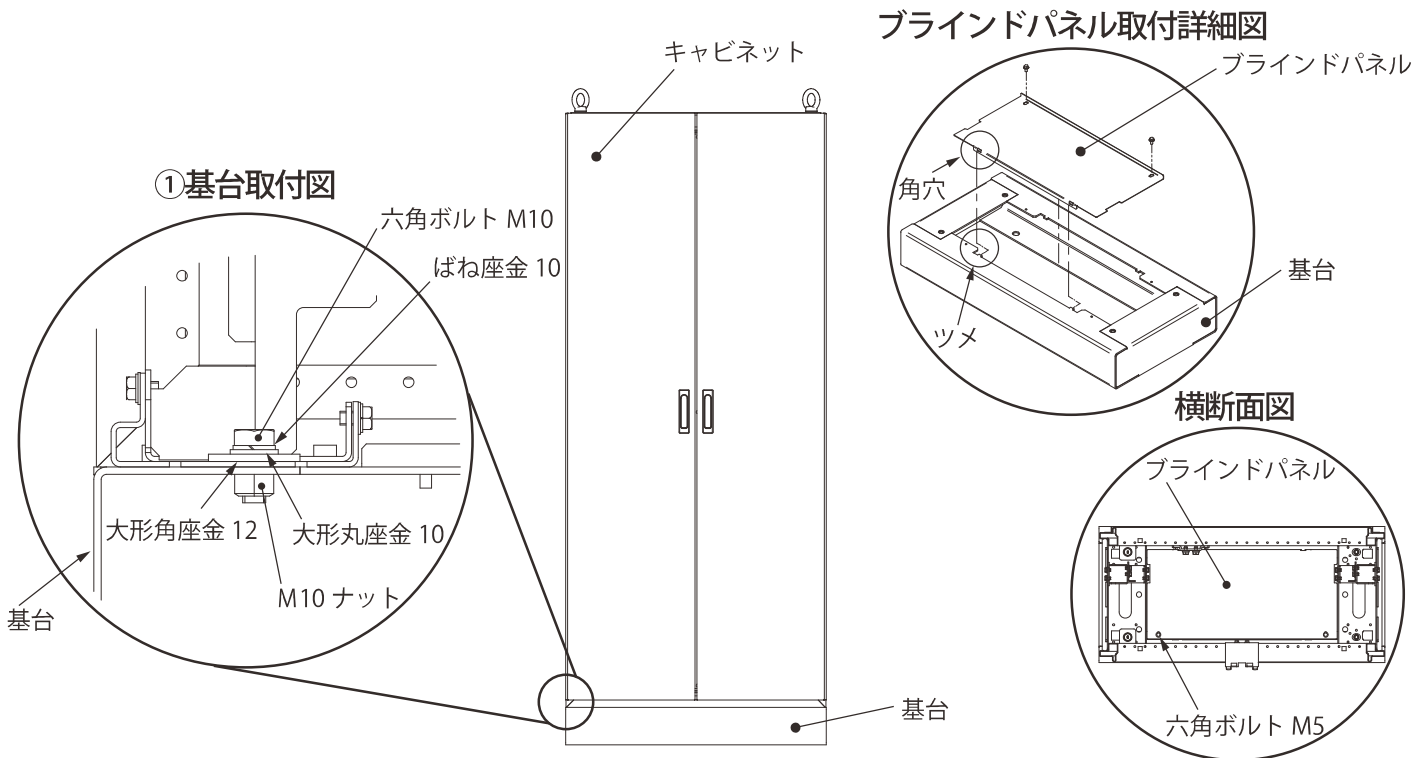
※基台組替仕様は、ご要望により基台を先行して発送することができます。  
価格・納期などの詳細は別途お問合せください。

## ■基台の取付方法

- ・ブラインドパネルの取付ねじ(六角ボルト M5)を取り外して、基台の M10 ナットに六角ボルト M10・大形角座金 12・大形丸座金 10・ばね座金 10 を「①基台取付図」のように取り付けてください。
- ・ブラインドパネルの取り付けは、基台にあるツメをブラインドパネルの角穴に差し込んで、六角ボルト M5 にて取り付けてください。

(ご注意)

光ケーブル、光コードの入出線は、ブラインドパネルを取り外すか、穴加工をしてください。



### ⚠注意



使用するねじやボルトは、指定されたものを使用してください。  
取り付けの際は、適正締め付けトルクにて締め付けてください。  
締め付けが不十分な場合、落下・破損の原因になります。また、  
締め付け過ぎの場合は、製品を破損するおそれがあります。

| ねじの呼び | 適正締め付けトルク       |
|-------|-----------------|
| M5    | 2.9 ~ 3.9 N・m   |
| M10   | 19.6 ~ 29.4 N・m |

### お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら弊社お客様相談室にお問合せください。

**TEL (0561) 64-0152**

〈受付時間〉8:30 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:30(土・日・祝日は休み)

本製品の故障や瑕疵により、当社の予見の有無を問わず生じた二次損害について、当社は一切の責任を負いかねます。  
仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

2023年4月  
B923710922